

第13回 長南町過疎対策検討委員会議事録（要旨）

平成25年8月28日（水）

庁舎分館2階第一会議室

18時30分から

出席者 過疎対策検討委員会委員9名 アドバイザー1名

事務局 小澤、相澤

会議資料

- ・ 空き家を利用した長南町への定住促進
- ・ “市（いち）” の復活
- ・ 「若年層を取り込み、元気なまちづくりの火を起こす情報発信」
- ・ 課題 「農業のイノベーション」 素案—1
- ・ 長南町農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- ・ 「政策名：創造型産業の誘致」の素案作り
- ・ 子育て支援の拡充と交流拠点整備による移住定住の促進と町の活性化
- ・ 農業経営のイノベーションによる長南町の活性化と雇用の創出
- ・ 参考資料「帰ってきたコウノトリ」

1. 委員長あいさつ（岩瀬委員長）

第13回目の検討会になります。

中間の取りまとめを来月末に予定しておりますので、それに合わせて政策を策定していきたいと思います。よろしくお願いします。

2. 検討・協議の内容

（岩瀬委員長）

始めに、前回委員の皆さんから様々な質問等がありましたので、空き家・市（いち）・情報発信の部会毎に、その検討結果を報告していただきたいと思います。それでは、空き家部会の武田さんからお願いします。

（武田委員）

（資料：空き家を利用した長南町への定住促進）に基づき説明。

前回の委員会で事例等を加えてはどうかというご意見をいただきましたので、資料の＜4. 参考＞の中に、行政のほうで参考になるものを追記しました。

(岩瀬委員長)

この件について、意見等ございますか？

(意見・質問なし)

(岩瀬委員長)

それでは、空き家部会の政策については、今回皆さんから新たな意見等はありませんでしたので、これを案とし、提言する政策といたします。

続きまして、市の部会の長谷川さんをお願いします。

(長谷川委員)

(資料：“市（いち）”の復活)に基づき説明。

書面を提言書式に修正しました。そして、笠森観音に接続する二本の町道を開催場所として新たに追加しております。あとは、書面の空欄に市（いち）の状態として参考程度の写真を加えたものを最終的な提言文書にしたいと思います。

(岩瀬委員長)

何かご意見等はございますか？

(意見・質問なし)

(岩瀬委員長)

それでは、この「“市”の復活について」の案を提言政策とさせていただきます。

続きまして、情報発信部会の田島さんからお願いします。

(田島委員)

(資料：「若年層を取り込み、元気なまちづくりの火を起こす情報発信」)に基づいて説明する。

大きく変更したところは、提言する政策の項目を6つから7つに増やしたことです。これは内容が増えたのではなく、前回までは「既存ツールの活用」という一つの項目だったものを、⑥防災無線の有効活用と⑦広報『ちょうなん』のリニューアルという項目に分けたためです。

新たに加わったものとしまして、④ネット世代を意識したPR手段の戦略的活用の最後に、「ソーシャルメディアの活用」ということで、他地域の先進的な

事例に学ぶ研究チームの立ち上げを入れました。さらに、別紙１～３を参考資料として付けました。別紙２のフリーペーパー（画像）に付きましては、提言書の提出時に本物を付けたいと思っています。

（岩瀬委員長）

この案について、ご意見等ございますか？

（池田委員）

ＨＰ（ホームページ）に載せた情報などは、ご高齢者の方には伝わりにくいと思います。なので、ＨＰと同時にそれ以外の方法でも情報を発信する必要があると思います。

（田島委員）

それについても、一つ一つやっていければというように思っています。防災無線や広報「ちょうなん」にＨＰの情報を共有させてはどうかと思います。

（武田委員）

ＨＰに載せるすべての情報を、他の方法で発信するというのは大変難しいことです。なので、最低限度必要な情報をＨＰとその他の方法で共有させるのがいいかと思います。

（池田委員）

それだと、より詳しい情報を得るためにＨＰを見ないといけない必要が出てくると思います。そうなってしまうと、結局ＨＰを見ない方たちには、全体の情報がいきわたらないことになります。

（石田アドバイザー）

広報「ちょうなん」に載せる情報のスペースは限られていますが、高齢者等ＨＰをあまり見ない方へ伝えるべき情報をまず選出して、確実に伝えられるようにした方がいいですね。それでいて、伝えられていないものが無いように工夫が必要だと思います。

（長谷川委員）

現段階で、広報には毎回特集ページを設けるとありますので、特集の中にＨＰのリニューアル内容などをかいつまんで載せられれば、かなり充実した内容で情報発信が出来ると思います。

それから、iPad のレンタル事業を展開するなかで、高齢者の方たちにもその話が浸透していけば、インターネット等にも触れる機会が出てくると考えられます。対象を若者に限定するのではなく、町民全体に膨らませて展開させていくと良いように思います。これも一つの項目として追加してはどうでしょうか？

(田島委員)
わかりました。

(岩瀬委員長)
他にございませんか？

(佐久間委員)
iPad でもパソコンでも、情報を得るには高齢者の方が自分で見なければなりません。ご自宅にいる方には難しいかもしれませんが、例えばデイサービスの場などで職員の方に定期的に読み上げていただくなどすれば高齢者の方にも情報は入りますし、より詳しく知りたいという方にはそれこそ iPad やHPを知っていただく機会にもなります。

(長谷川委員)
集会などに参加されなくなった世代の方にも有効だと思います。デイサービスや集会の場で、情報共有の時間を設けるということにすればよいと思います。

(西田委員)
ラジオ放送で町のアピールをするという中に、高齢者向けの情報を入れてやっていくというのもいいと思います。

(長谷川委員)
ラジオ番組をやっていくとしたら、それと同時に町内の WiFi のフリースポットを増やすことも提案に加えたらいいと思います。町内ではラジオの電波が入らない地域もありますのでその解消のためと、役場や公民館でもフリースポットを設ければ、利用される方からしたら便利になりますし、人が集まる拠点作りにも役立つと思います。

(岩瀬委員長)
広域への情報発信としまして、新聞などの紙面を利用したり、広告を出したりといった形で町のイベントをPRする方法も提言に加えてもらいたいと思い

ます。

（岩瀬委員長）

他に何かございますか？

（意見・質問なし）

（岩瀬委員長）

無いようですので、情報発信部会はこれを基に修正を行っていただきたいと思います。

以上で三つの政策の検討につきましては、終了させていただきます。

まだ、他にも意見や気付いたことなどがありましたら、各部会長の方へ連絡していただきたいと思います。

次に、前回お願いしました新たな三つのテーマについて、目的・現状・課題等の検討結果を発表していただきたいと思います。まず、長南農業のイノベーション部会の西田さんからお願いします。

（西田委員）

（資料：課題「農業のイノベーション」素案―1、長南町農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想）に基づいて説明。

長南町農業の課題ですが、農業構造の脆弱化への対応、農業のグローバル化への対応、食の安全・安心志向の高まりと消費者ニーズの多様化への対応というような形になっています。

現状としまして、町が5億円を予算化して、農業支援という形で蓄えたお金がありましたが、実際に使われたのは1億5千万円くらいということで、施策は内地拡大のようなもので、農業をやってらっしゃる町民の方を支援し、外からの就農者への支援は弱かったというのが現状かと思います。

長南町農業の現状と課題の詳細につきましては、「長南町農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」を参照していただきたいと思います。

これからの農政展開の基本的考えとしまして、a：農地集積バンク（仮称）の事前準備、b：「ニューファーマー展」への積極的参加、c：TPP対応各地域「営農組合」の新組織の推進、d：他地域との差別化をする無農薬米の模索・推進、e：耕作放棄地の蓮田転用を考えています。

（岩瀬委員長）

委員（町民）から観た場合の農業に対する課題というものはあったでしょう

か？

（西田委員）

今回は町のほうから頂いた資料から課題などについて挙げさせてもらっていますので、これらについては皆さんから意見をいただけたらと思います。

（池田委員）

農業をやっている方の年代というのはすごく高いです。その中では、それまで出来ていた仕事が出来なくなり、若い人がいるところへすべて委託する形がとられていることもあります。その辺りの契約がどうなっているのかわかりませんが、外から見ている農業従事者の推移というのはそういう形になると思います。

（岩瀬委員長）

長南町における農業所得は低いです。ほとんどの方が農業以外の本職があり、農業というのは副業です。農業をやる方というのは、定年になって両親が農業をやれなくなったところに新しく始めるといったことが多いです。長南町の農業就業者の年齢が高いのには、そういった理由があります。それから、長南町の農業においては水稻が主であって、野菜栽培というのが非常に少ないです。さらに、町の特産物のレンコンもPR不足であって、なかなか全国区にはならないというのがあります。営農組合についても、現在、三組合が組織化されているだけで他の地域へ広がっていかないのは、行政が組合の必要性や利点等を積極的に各地域に説明しなかったためではないかと思います。

無農薬米を推進していくのも、いきなり始めていくのはやはり難しいと思います。それからすると、有機米や有機野菜の方がハードルがやや低く、そちらの方から取り組んでいき、やがては無農薬を目指していくというようにすると良いかと思います。福島原発事故以降に食の安心安全がいつそう求められるなかで、町としてもそれに対応していかなければなりません。その中で、ある程度地域ブランドを特化していくような形が良いのではないかと思います。

とにかく後継者不足をどうにかしなくてはいけないですし、その辺りについては、営農組合が生産法人だったかと思いますが、地元に残っている若い世代が農業に自信をもって就労できるようになった組織など、そういう方向に持って行って、社員として働けるような形に発展できないかというように思っています。それが課題だと思います。

(石田アドバイザー)

農業の課題は、本来であれば10倍生産性を上げられるのに、現時点ではそれが出来ないことです。その理由として、一つは機械化を含めた大規模化の効率性が非常に悪いこと。二つ目に時間的な理由ですね。農業の場合は作業が忙しい時期と何もない時期がありますので、何もない時期に何をしていたらということです。三つ目は市場の問題になります。

(岩瀬委員長)

やはり生産性を向上させないと就労する方もいないし、農業をやろうにも続いていかないですね。

(長谷川委員)

生産効率を上げるのに、無農薬農業をやってらっしゃる方に習う勉強会というのが必要ではないかと思います。無農薬の米や野菜は単価が高く、収益の上昇になりますし、安全面などで町のPRにも繋がります。それから、市場の販売網の開拓・開発も必要になってくると思います。

(西田委員)

勉強会というのは後継者の部分とも並行してやっていく必要があるように思う。

(石田アドバイザー)

若者を含めてそういった仮の農業塾という場があれば、それが就農者の育成にもなりますね。

(池田委員)

町の方でそれをサポートするような形で始めれば、若者も入ってこられるし、町の人もやってみようとする機会になると思います。

(岩瀬委員長)

それも課題になりますね。

(森山委員)

勉強会という意味では、農業をされる方だけではなくて、消費者（一般の住民）の方にも農薬などの良し悪しを知ってもらう機会があると良いかと思います。

(長谷川委員)

高齢者の体力不足を補う作戦として、今後安全な米を高く売ることになるかと思いますが、その時に町が直売できれば、安く購入することが出来ると思います。それを、町のほうへ手伝いに来ていただいた方が優先的に購入できるというようにすれば、誘致する方法としてとれるのではないかと思います。

(武田委員)

長南産のブランド米がわかるように、ＩＣチップやコード化したものを米袋に印刷するなどして、ブランド化を明確にしたら良いと思う。それだけで長南産のお米の単価も変わってくると思います。

(石田アドバイザー)

良い案だと思います。ただ、その場合の問題として、その品質を対外的にどう保障するかということで、認証制度を町がとるのも良いかと思いますが、そうすると町が生産から出荷までを管理しなくてはなりません。もう一つの問題が、量を確保することですね。

(岩瀬委員長)

それでは、次のテーマである創造型産業の誘致に入りたいと思います。武田さん、お願いします。

(武田委員)

(資料：「政策名：創造型産業の誘致」の素案作り)に基づいて説明。

政策名として、創造型産業の誘致となっていますが、主体的には醸成していくという考え方で入っていったらどうかと思ひまして、ここからは創造型産業の醸成と誘致としたいと思います。

目的ですが、「自然が誇り、住むことが誇り、元気な町 長南」となるために「町の核」となる創造型産業を興し、育成し、発展させる。また、創造型産業も積極的に長南町へ受け入れるとしています。

現状の課題ですが、長南町の強みが活かしていない、安易に町外へ目が向いている、インフラ整備が整っていない（光回線などは整備されているが、利用状況が低い）、各種分野への人脈が無い（全く無いわけではない）、町全体としての体質が外部からの人や物を受け入れない状況が見られる、といったものが挙げられます。

次に、政策の内容ですが、未来を見据えた人材の育成から出発するのが良いかと思われます。それと、長南 I T バレー造りでは開発ばかりでなく、システムセンターなども誘致します。プロの食材提供ビジネスでは、動き方によっては企業体としては独立した財産ベースに乗れると思います。それから、「ながいき特養」の誘致ですが、メリット・問題点ともにありますが、交通のアクセスという意味では、長南町が新しく特養を造るのに効果ありということも、新しい情報としてあります。

以上のように項目については考えていますが、これからまた部会の中で揉んで、項目も増やそうかと思っています。

(岩瀬委員長)

何かご意見等はございますか？

(西田委員)

工学部や理系などを考えた場合、次の町長さんが町の小学校をいくつにするのか決定していくということですが、その辺で我々は提案として、例えば理系を育てるという考え方を基に小・中・高一貫校をこちらから推進していくという考え方はどうでしょうか？

(武田委員)

無理だと思います。高校をつくるということは、やはりそれだけの学生を集めなくてははいけません。目的は教育ではありません。これは、アートですとか理系の取っ掛かりをつけるがための課外育成なんです。

(石田アドバイザー)

私は、もともと提案されていた人材の誘致というのが、一番現実的であると思っています。その人材を誘致する土壌を長南町は持っていて、そのコネクションで次の時代をつくっていくというのはいり得ることとおもっておりますので、一つはその芸術系の人材、それから I T 系の人材、または福祉系の人材と、そのような人たちにこちらに住む際に優遇措置をしたり、役場が色々な機器を貸してあげたりといったサービスがあるという様に、人材の誘致を入れていただきたいと思っています。

(白井委員)

現状と課題の(2)の笠森層の安定的な立地というところですが、長南町の地質層は周辺市町村との影響の色別のグラフを見たときに、それほど安定的だ

と言えない部分があるとの話がありましたので、これを確認する客観的な資料があると良いかと思います。

（岩瀬委員長）
他にございますか？

（西田委員）
圏央道が開通して羽田と成田へのアクセスがよりよくなりましたが、それをもっとアピールして誘致としての考え方をもって活性化に繋げていく形が取れるといいですが。

（森山委員）
バスになるんですが、利用者は鶴舞 IC でほとんど降りてしまって、長南まで乗ってくる方はほぼいません。なので、本当に P R をどんどんして利用者を増やしていかないといけないと思いました。

（長谷川委員）
施策の中に主要都市への利便性をアピールしながら、どんな路線が使えるか、料金がいくらかということを盛り込んでいくと良いかと思います。

（岩瀬委員長）
では、政策名：創造型産業の誘致とありますが、基本的には醸成を行ってから、徐々に誘致していくということによろしいでしょうか？

（武田委員）
それでは、政策名を「創造型産業の醸成と誘致」に直しておきます。

（岩瀬委員長）
本日意見が出ましたので、創造部会の方でもう一度考えていただきたいと思います。

では最後になりましたけども、子育て支援と交流施設の整備部会の方の案を発表していただきたいと思います。長谷川さん、お願いいたします。

（長谷川委員）
（資料：子育て支援の拡充と交流拠点整備による移住定住の促進とまちの活性化）に基づいて説明。

目的ですが、最終的な子育て支援の核としまして、子どもの自活力形成と伝統の継承を考えました。子育て支援を突き詰めますと、子どもの教育の充実化ということになると思います。町では子育て支援策を実施してはいますが、幼児期から情操教育や知財教育活動への取り組み、関連施設の整備が進められていないところなどが現状としてあるかと思います。

現状に対し課題となってくるのが、活動スペースが生み出されていないということが一つありまして、放課後児童クラブなどでは、施設やみられている職員の人数が少なく子どもの活動をみきれていないという現状があり、それと同時に管理やセキュリティ、経費の負担が不明確となっており、財源の確保が課題となってきます。そして、一番大切な所としまして、子どもの感性を磨く機会が無く、そのことを把握している方も町側としては少ないということがあります。そこで何が必要かとなれば、長南町の方自身が定義していくことと、そのPRも含めて解決策の提案になりますが、具現化として、子ども向けカルチャークラブとワークショップの開催、図書館の設置を挙げてあります。施策としまして、クオリティの高い学芸員と有識者による検討委員会を設置し、イベント内容の検討と社会環境のインフラの整備を行っていきます。子育て支援をしていることを対外的に知らせるために、例えば圏央道から見える位置にそういった施設を集合させていけば、町のキャラクター作りにしても、町に人を集めるきっかけにもなっていくかと思いますので、入れていければと思います。

当面の取り組みとしまして、利用可能な施設の洗い出し、圏央道の通りから見える位置に長南町の施設をどれだけ集中できるかどうかを含めて、やってみようと思います。

(岩瀬委員長)

今の案について、ご意見等ございますか？

(石田アドバイザー)

内容を見てみると、本物に触れるということですね？

(長谷川委員)

そうです。より多くのことを楽しくアピールできる先生を呼んでいくことや、民間の意見を交えるために委員会をくつつけることによって、本物を呼んでくることを充実させたいと思っています。今いらっしゃる本物を町から掘り起こすのもその作業の一つだと思います。実際にプロとして活動していらっしゃる芸術家の方たちを講師として迎えて、子どもたちに本物を見せながらワークショップを行えます。そうした中で子どもたちの可能性を育てることが出来ていく

と思いますので、色々な事を充実させていけたらと思います。

(佐久間委員)

子育て支援というと、補助を出したりなど金銭的なものが出てしまいがちですが、子どもが「長南っ子でよかったな。」と大人になった時に戻ってくるまでが子育てかと思います。その根本を創るのは、幼少期に与えられた環境での育ち方だと思います。なので、その金銭的な部分だけではなくて、教養など質の高い本物を触れさせることが大切かなと思います。

(岩瀬委員長)

他にございますか？

(長谷川委員)

補足なんですけど、「子どものうちから干渉することを学ぶ」ということが、一番加えたいこととしてあります。というのも、子どものうちから家事などを自分から観賞し、より良い方向性を自分で見つけて、自分で補っていけるようになるのが、良い部分を見て学べる観賞力なので、芸術が教育の原点であると思っています。美しいものというのは人を感動させ、喜ばせます。その気持ちが小さいころからあれば、良いものに対する感性というものは上がると思います。そういうものを身につけられる、自活力というものを持たせることが、色々なワークショップだと思うので、一つの提案としてまとめていけたらと思います。

(森山委員)

伝統文化の提唱のところで、お年寄りの出番がたくさんあるということになると、そのお年寄り自身も元気になって、町の人それぞれの得意分野があって、先生をしてもらうということも、一つの重要な要素だと思います。

(石田アドバイザー)

子どもを軸として文化活動を活発にし、それに色々な人が参加できればとありますが、その開催場所として一つが図書館ということになってるんで、ここを少し膨らませていただければと思います。

(長谷川委員)

それにつきましては、各小学校の内外の施設や町の方で管理している施設なども盛り込んでいこうと考えています。

(岩瀬委員長)

交流拠点ということですので、町内外の方が集まり、情報交換が出来る場所として、他の自治体でも整備が進んできているんですが、やっと圏央道も開通しましたし、その下地は出来てきたと思います。その中で空き家等もありますし、そういったところで老若男女が元気になれるような場所をつくり、情報もそこで共有していきたいということもありますので、長い目で見れば小学校や公民館を使うというのもあるんですが、部分的にみると既存の空き家のほうに補助金を使いながら、そういう拠点整備をやっていくことも考えとして入れていただきたいと思います。

(岩瀬委員長)

本日は六項目にわたりましてご協議いただきありがとうございました。九月末の中間とりまとめについて、二つの政策案については皆さんの同意をいただきましたので、提言する政策といたします。情報発信部会についてはもう一度意見を踏まえた中で、作成していただきたいと思います。それと今回の新たなテーマについては、今日出された意見等を参考にもう一度検討していただきたいと思います。それで、次回までに課題と方向性について、ある程度まとめていただけたらと思います。

次回の会議は9月24日(火)、午後6時30分から行います。場所は、分館第一会議室になります。

午後9時07分 閉会